



エキシビジョン（車いす女子テニス/ニューミックスダブルス） ポストマッチインタビュー

Q：今エキシビジョンが終わりまして、お二人それぞれから一言ずつお願いします。

A：（大谷）去年に引き続き、今年も呼んでいただいて本当に嬉しかったです。去年出ている分、すごく心にも余裕があって、シングルスは少し緊張したのですがミックスはすごく楽しくてまだまだやりたいなって思えるような試合でした。

（船水）このようなすばらしい東レパンパシフィックオープンテニス大会の会場でプレーさせていただくのも初めてだったので、最初から最後までずっと緊張していて、ニューミックスダブルスもちゃんと試合という形でやらせてもらったのも初めてだったので、最初から最後までどうすればいいんだろうなって思ったんですけど、楽しくできたので良かったです。

Q：ミックスダブルスを組んでいただきましたお二人にも一言ずつお願いします。

A：（佐伯）私も現役時代にこの大会に何度か出させていただいて、すごく久しぶりだったので、またニューミックスをするのも初めてだったので、本当に楽しみにしていましたし、とても楽しくできました。

あと今回日本人ダブルス優勝でシングルスも決勝に残って本当にテニス界が盛り上がっているので、オリンピックに向けて車椅子の競技も楽しみで、応援したいなと思います。

（吉田）私も佐伯さんと同じように現役時代東レには毎年出場させていただいて、選手を引退して10年以上経ってしまって、緊張はすごくしたんですけども、とにかくニューミックスを楽しくやろうということを中心に、今日それが一緒にペアを組ませていただけたので、本当に良かったなと思います。

東京オリンピックに向けてみんなで盛り上げていければいいなと思いますし、ぜひみなさんにもやってもらえればすごく楽しい試合だと思います。

Q：いま全員ニューミックスが楽しかったとおっしゃっていたんですけど、どんなところが具体的に楽しかったのか、ニューミックスならではの醍醐味を全員にお伺いしたいです。

A：（大谷）車椅子テニスはどうしても車椅子に座ってやるスポーツなのでなかなか速さが出づらいスポーツだと思うんですが、やはり健常者と混ぜてやるとその速さにどうやって対応していこうとか、逆に車椅子ならではのボール、どうやって配球しようとか考えながらやるのがすごく楽しかったです。

（船水）車椅子女子のダブルスではアプローチだったり前に出たり前後のパートナー同士での前後の動きであったりとか横の動きも全然違ってきますが、新しい動き方でできたので、そういう部分もすごく楽しかったです。

（佐伯）普段はワンバウンドなので決まったなと思っても、ツーバウンドで返ってくるので、どこにボールを配球すればいいか、あとは立ち居地が普段とは違うので、いろいろ考えさせられて楽しかったです。

あとサーブ、車椅子から高さがなく弾道もファーストサーブは低い。普段リターンを構えているのと違うので、どこに打てばいいのかっていうので考えさせられてすごく楽しかったです。

（吉田）最初の5分のラリーのとき、打たせていただいたときにツーバウンドもワンバウンドも混ざっていて永遠に続くんじゃないかっていうぐらいのラリーがずっと続いていたので、そういう感覚も今まで感じたことがなかったです。

試合をやってみても普段のどう動くか、コーチひとつとってもまた違うことを少し考えてやれたってということが何十年もテニスしてきたので、そういうのが新鮮でしたし、取れたとき二人で協力してポイントが取れたときのうれしさがすごく今日はあったので、そういった意味でより楽しかったなって印象を受けました。

Q：大谷選手と船水選手にお伺いしたいんですけども、大坂選手とプリスコバ選手の決勝を観戦された感想と、車椅子テニスだとプレースタイルもルールも異なってくると思うのですが「こういうところまねしてみたいな」と思ったところがあったか教えてください。

A：（大谷）大坂選手を実際に試合で見るのが初めてだったので、本当に球筋が早くて、振られても後ろに下がらずにライジングとかで返している姿を見て車椅子も結構ツーバンまでできるので後ろに下がりがちだと思うのですが、ライジングで返すのもひとつの手かなと思いつつ見ました。

（船水）私も大谷選手と同じように大坂選手のプレーを見たのは初めてだったんですけど、大坂選手もプリスコバ選手もどちらもサーブが優れていて、自分がサービス権を持っているときに絶対抜けるサーブを持っているだけでこんなにも心の余裕が持てるのかと。

しっかりゲームを取れるというのを見て感じたので、やっぱりサーブだけは唯一邪魔されないで、自分のタイミングで打てるものだと思うので、サーブをもう少し磨けたらだいぶ違うんじゃないかなって感じました。